自衛隊茨城地方協力本部

霞ヶ浦高等学校２年生、戦争を学ぶ

自衛隊茨城地方協力本部龍ケ崎地域事務所（所長・逆井1陸尉）は、10月10日に実施された霞ヶ浦高等学校の平和学習を支援した。

この平和学習は、修学旅行の事前平和学習の一環として、この地の歴史や第二次世界大戦終了間際の状況を学ぶことで戦争とは何かを生徒達に考えさせ、戦争の非情や恐怖、命や平和の大切さを深く胸に刻み込んでもらいたいという目的で実施されている。

今年は371名の生徒及び教員22名がこの平和学習に参加し、「雄翔館、雄翔園」「予科練平和記念館」「武器学校広報地域」を見学した。

特に山本五十六元帥像前では、山本元帥の生い立ち、石像の逸話等の説明を熱心に聞いていた生徒達の姿が印象的だった。

今後も積極的に校外学習等を支援し、引き続き高校との連携の強化に努めていく。

入隊を担当した隊員を臨時勤務に迎えて

筑西地域事務所　出町由大２等海曹

今回、臨時勤務に迎えた隊員との出会いは、今から3年ほど前の令和3年2月頃で、ハローワーク筑西の方からの電話が始まりである。事務所でお話を聞いたところ、海上自衛隊を希望としていた。海上自衛隊の女子の壁は一筋縄ではいかなかったが、自衛隊への入隊を希望していたことから、陸上自衛隊を受験し採用予定通知書を獲得した。

その隊員が最初に部隊配属された駐屯地は北海道旭川で、関東では経験しない寒さと、雪国特有の雪かきの大変さを経験したと電話で語ってくれた。陸上自衛隊に勤めるも海上自衛隊入隊への情熱が消えることはなかった。その隊員は、北海道で再度海上自衛隊の試験に挑戦し、見事に合格した。

海上自衛隊には再度2等海士での入隊で、初任海士課程を終了し、呉を母港とする輸送艦「おおすみ」の運用員として配属された。

今回の臨時勤務は、現在は運用員ではあるものの、募集・広報の職域に興味があり、現場を知りたいことからの希望であった。まさか入隊までサポートした対象者が、まだ自分が広報官として勤務している間に、同じ職場に来るとは思ってもいなかったので驚いた。

しかし、その隊員が臨時勤務に来てくれた事は、海に面していない県西地区には追い風になり、地域の中学校で実施された「職業人に学ぶ会」では、自衛隊＝男性社会といった先入観を吹き飛ばしてもらえた。

また、県内各地で実施されたイベントにも積極的に参加し、「自衛隊の女子」のアピールができて、ミニ制服の試着を手伝ってもらう等、地域の方々にとって非常にありがたかった。

自分が担当した入隊者と同僚として再会した時、隊員として大きな成長をしていた事の喜びと、永い自衛隊生活において、先を見据えたキャリアパスをよく考えている事にふれ、親心に近い感情を覚え、今後の活躍がますます楽しみである。人との出会いの形は様々であるが、今回の隊員との再会で得られた経験と、これまで培ってきた経験を武器に募集業務に邁進する。

「奥久慈大子まつり２０２４」に参加

自衛隊茨城地方協力本部日立出張所（所長・笠井1海尉）は10月20日（日）に大子町福祉会館「まいん」で開催された「奥久慈大子まつり２０２４」に参加した。

今回は晴天に恵まれ、秋晴れの清々しい季節の中で開催された。若干気温が低く肌寒くも感じたが、茨城県北地区の山間に、水戸市やひたちなか市など県内各地から約９０００名の来場者があり、年齢層は子供連れの家族層が多く大盛況であった。

今回も小型トラックの展示、ミニ制服の試着、広報ブース展開、また、臨時勤務で輸送艦「おおすみ」から来た女性海士が参加し、女性かつ現職の艦艇勤務者ということで来場者からも時折、「子供たちと一緒に写真いいですか」など人気者だった。

昨年度は、この地方部に位置する大子町からも2名が自衛隊に入隊した。少子高学歴化で募集対象者減少は否めないが、日立出張所は、今後も積極的に地域のイベント等に参加し、自衛隊の認知度向上を目指し、一人でも多く自衛隊を職業として考えてくれるように募集広報活動を継続していく。